しんぱん
新版
しどうようもんしゆう
指導要文集

だいにししよう
じっせん

第二章
実践

ぶつぽう
しようぶ

仏法は勝負

けっく
結句は、
しょうぶ
勝負を決せざらん外は、
ほか
この災難止み難かるべ
さいなんや
がた

139 治病大小権実違目

じびょうだいしょうごんじついもく

ぶっぽう
仏法は勝負
しょうぶ
1333 ページ 8 行

ぞくたい しんたい なか しようぶ
そもそも、俗諦・真諦の中には勝負をもつて詮となし、
せけん しゆつせ こうおつ さき
世間・出世とも甲乙をもつて先となすか。

（152 大田殿許御書
おおたどのもとごしよ

ぶつぽう しようぶ
仏法は勝負
1363 ページー11行

そ ぶつぽう もう しょうぶ 先 おうぼう もう しょうばつ
夫れ、仏法と申すは勝負をさきとし、王法と申すは賞罰
をもと
を本とせり。故に、仏をば世雄と号し、王をば自在とな
づけたり。

(209) 四條金吾殿御返事 (世雄御書)

しじょうきんごどのごへんじ せおうごしよ
ぶつぽう しょうぶ
仏法は勝負1585ページー7行

ぶつぽう しょうぶ だいいち おうほう しょうばつ
およそ、仏法というのは勝負を第一とし、王法というのは賞罰
こんぽん
を根本としています。したがって、仏が世雄と号し、王を自在と
な
名づけるのです。

ぶっぼう もう どうり どうり もう しゅ か
仏法と申すは道理なり。道理と申すは主に勝つものなり。

209 四条金吾殿御返事 (世雄御書)

しじょうきんごどのごへんじ せおうごしよ

ぶっぼう しょうぶ
仏法は勝負 1590 ページー10 行

ぶっぼう どうり どうり
仏法というのは道理をもととしています。道理というものは主君

けんりよく

のもつ権力にもかならず勝てるのです。

にちれん

ぶつぽう

試

日蓮、仏法をこころみるに、道理と証文とはすぎず。

どうり

しょうもん

過

どうり

しょうもん

げんしょう

過

また道理・証文よりも現証にはすぎず。

さんさんぞうきうのこと

(352 三三蔵祈雨事)

ぶつぽう

しょうぶ

仏法は勝負1941ページー8行)

1941

にちれん

ぶつぽう

はんだん

日蓮が仏法を判断するのに、道理が正しく経文がきちんとそろ

どうり

ただ

きょうもん

す

っているものに過ぎるものはありません。さらに、道理、経文より

どうり

きょうもん

げんじつ

しょうこ

すぐ

も現実の証拠に優るものはないのです。

あく おお 悪は多けれども、一善にかつことなし。譬えは、多くの火
いちぜん 勝
いつすい 消
いちもん 一
あつまれども、一水にはきえぬ。この一門も、またかくの
いらいどうしんじ
ごとし。

(398) 異体同心事

ぶつぽう しょうぶ
しんじ
仏法は勝負 2055 ページ 2 行)

あく おお 悪がどんなに多くても一善 (正しい仏法 || 御本尊) に勝つことは
いちぜん ただ
ぶつぽう ごほんぞん か
たと おお ひ あつ みず け
ありません。譬えは多くの火が集まっても、水には消されてしま
いちれん いちもん
います。日蓮の一門も、またこれと同じ道理です。(今は無勢であつて
ぶつぽう ただ
こうせんるふ
も仏法が正しいため、かならず広宣流布していくのです)